被災地の路上から vol.2

ともに生きよう。3.11
WE ARE WITH YOU.

2012年5月15日第2号発行
発行元　ビッグイシュー基金
HP：http://www.bigissue.or.jp/
Mail：tokyo@bigissue.or.jp

東日本大震災以降東北の最大都市仙台に、全国、あるいは被災地からも仕事を求める人々が集まっています。中にはそのまま職が見つからず、生活資金が底をついてホームレスとなってしまうケースも報告され始めています。どのような支援があれば彼らはホームレスにならず、また、なってしまっても路上生活を脱することができるのか。みなさまと共に考えるため、お便り「被災地の路上から」を発行しています。

被災者支援のいま

仙台市内で路上生活者の自立支援や仮設住宅に住む被災者支援を行っている団体から、現場の声を聞きました。

NPO法人 POSSE（仙台 POSSE）

東京や東北の学生たちが中心となり、仮設の被災者支援に取り組む「仙台 POSSE」。東京の大学院生で、震災後は仙台に住んで活動の中心を担っている事務局の渡辺寛人さんに話を聞きました。

最初に私たちが始めたのは、仮設住宅への引越しの手伝いです。引越しを通じて、外からは分かりにくい暮らしの様子が見えてきました。たとえば、生活保護や介護保険など、制度を利用できるはずの人が利用できていない、そのため貧困から抜け出せないケースが多くありました。引っ越しの手伝いは、そうした方たちを適切な制度につなげていく活動のきっかけになりました。今は引越しの手伝いの他に、仮設住宅での送迎バス運行や、仮設住宅に住む子供たちのための学習支援も行っています。このような活動を通して、仮設住宅に住む方の潜在的なニーズを引き出して、サポートを必要としている方には、他のNPOと協力しながら必要な制度につなぐ支援をしています。

そもそも私たちが支援をしている方々は、ほかに頼る先がないという方が多い。POSSEは労働や貧困の問題に取り組んできた団体ですが、生活を安定させるための福祉制度やセーフティネットが不十分、あるいは利用しにくいという点では、震災であぶり出された問題も、これまで扱ってきた貧困問題も同じです。個々のケースを丁寧に拾い上げ、ゆくゆくは既存の制度の質向上につなげたい。そしてそれは、被災地外の人にとっても、決して無関係な問題ではないはずです。

NPO法人　POSSE

【活動概要】若者の労働相談や政策提言を行ってきたNPO法人POSSE。仙台POSSEは、その地方支部として2009年に設立。
HP（NPO法人POSSE）：http://www.npoposse.jp/
ブログ（仙台POSSE）：http://blog.goo.ne.jp/sendai-posse

NPO 法人
ワンファミリー仙台

2002 年より仙台市内でホームレス支援を行っている「ワンファミリー仙台」。広報・事業開発班班長の今藤雄さんに、仙台の路上について聞きました。

震災後、仙台の路上の変化をどう感じていますか？

路上の巡回をほぼ毎日行っていますが、仙台の路上生活者は新しい顔が増えていて、数は緩やかな右肩上がりといったところでしょうか。

一番変わったことは、仙台の路上から、ベテランホームレスの「お世話焼きさん」がいなくなったことですね。仙台には路上生活者のコミュニティがあり、食事や服をもらえる場所、炊き出しや夜回りのことなど、路上で生きるうえで必要な情報を「お世話焼きさん」が他のホームレスの方へ伝えていました。同時に、路上の情報提供という形で、私たちが行う支援のサポートもしてくれていたのです。そうしたベテランのホームレスの方が、震災関連の一時的な仕事に就いたのか、路上からいなくなり、新しくホームレスとなる人たちへのアウトリーチが難しくなりました。巡回を今までよりも丁寧に行い、新しい路上生活者の声を拾えるよう努めています。

新しく路上に出た人の経緯は？

周囲から「仙台に行けば何とかなる」と言われて市外から来たという人が多い。また、もともと非正規で働いていた人が事前通告などなしに解雇され、生活苦に陥った挙句に路上へ出てしまうケースも、以前より増えていると感じます。

被災地外からできる支援はありますか？

被災地外に住む人は、仕事や住まいがない人に対して、安易に「仙台行けばなんとかなる」と言わず、しっかりした情報をもとに行動していただきたいです。

震災後、一年が経過し仙台市の路上生活者も以前の状況に戻りつつありますが、こちらの復興も始まったばかりです。今後の長い復興を温かく見守っていただけたらと思います。

NPO 法人　ワンファミリー仙台

【活動概要】2002 年より仙台にて、路上生活者とのゴミ拾い活動のほか、農林研修、住居支援、無料職業紹介などを実施し、生活困窮者、あるいは社会的に孤立状態にある人のための伴走型支援活動を行う。仙台市の仮設住宅入居者への見守り事業等を実施している一般社団法人パーソナルサポートセンター（2011 年 3 月設立）の協働団体。

路上の声（40 代・M さん）

3 月下旬、まだ寒さのきびしい仙台市で、3 日前から仙台で路上生活を始めたという男性に会いました。

40 代前半、がっしりとした体格のMさん。実家は神奈川県。30 代後半まで県外の派遣会社で働いていましたが、糖尿病で体調をくずし仕事を失ってしまったといいます。

震災後、東北での復興関係の仕事が増えるからと誘われて、Mさんは知人のいる札幌の派遣会社へ向かいます。しかし、着いてみると事前に聞いていたほど仕事はなく、寮費や生活費を支払うために、会社からの借金が増えるばかりでした。

「やっと仕事が入ったと思ったら原発の仕事。でも、原発から離れたところだというので引き受けた。いざ現場についたら『建屋に入れ』って。もうびっくりして、怖くて逃げてきたよ」

その後、インターネット回線を取り付ける仕事に就きましたたが、給料から借金分を引かれていたため、生活は常にぎりぎり。そこでの契約が切られると同時に、寮がわりのホテルを追い出され、住まいを失いました。

「役所に相談したら、支援団体が多い仙台に行くといいと言われた」。そうして 3 日前に仙台にたどりついたMさんは、支援団体から寝袋を、公園にいたホームレスの方におにぎりをもらい、初めて路上で夜を過ごしたそうです。

「人の温かさが身に染みたね。でも路上は寒いし、人の足音もうるさくて、とても眠れない。一時期は死ぬことも考えた」と話すMさん。「ちゃんと自分を食わせることができて、人に迷惑をかけない仕事ならなんだってやるよ」。車が好きで、将来は車関係の仕事に就きたいという彼。現在は、仙台市の自立支援ホームに入居し求職活動を行っています。

「しごと」と「すまい」のこれから

東北復興における最重要課題である「しごと」と「すまい」。
それぞれ専門に活動されているお二人に、現在の取り組みと今後の話を聞きました。

しごと

話をうかがった方：「NPO 法人ワンファミリー仙台」平井知則さん／ホームレス支援の経験を生かし、現在パーソナルサポートセンター（PSC）と連携しながら被災求職者への就労支援に従事。

ホームレスの方への就労支援と、仮設住宅における被災者への就労支援。それぞれの取り組みについて教えてください。

ホームレスの方には里山保全（広葉樹林の間伐）やゴミ拾い等の仕事を提供し、就労意欲を高める機会を提供してきました。結果、就労自立をしたいというホームレスの方を多数、路上生活から脱却させてきました。

仮設住宅に住む被災求職者には、仙台市から委託を受けた手作業（復興定期便の封函作業）をはじめ、就労意欲を高めていくためのプロジェクトを中心に昨年度はすすめてきました。本年度は、就労したいけれどなかなか就労できない求職中の方に対して、伴走型の就労支援を進めていきます。そのためにまずは、求人と求職者を一つひとつ丁寧にマッチングしていきます。求人企業へは社労士等の専門家派遣やインターン受け入れ謝金等のメリットをもうけ、雇用された被災者には長く勤められるような生活サポートや研修等を実施します。

ハローワーク等の行政事業との相違点は？

就労困難被災者に特化したという点と求人企業にも求職者にもきめ細やかな就労支援を実施する点です。

被災地外からできる支援はありますか？

被災地でつくられたものを購入してもらうことも支援になります。風評被害がどうしてもぬぐえない状況のもと、被災地でつくられたものを購入してもらうことは、被災者の雇用が促進されますので、みなさんの購買支援をお願いできればと思っています。

すまい

話をうかがった方：「まちづくり株式会社コー・プラン」小林郁雄さん／都市計画・まちづくりの専門家で、神戸を中心に活動中。

東日本大震災は阪神・淡路大震災から 17 年も経って、住宅再建支援制度も変わったため、ふたつの比較はとても難しい。しかし、2004 年に起きた中越地震の事例を元に考えることはできると思います。

阪神・淡路大震災のときは、仮設住宅も復興住宅も、高齢者など早く避難所からの移動を必要とした人を優先して入居させた結果、サポートを必要とする人たちが固まって住むこととなり、孤独死が問題となりました。その教訓を元に、2004 年に起きた新潟県中越地震の際は、集落単位での入居を基本とし、多少入居を遅らせてでも近所の人たちと一緒に移れるようにしたのです。また復興住宅も中高層マンションを建てるだけではなく、平屋の家を複数建てて、元来のコミュニティをそのまま残すようにしました。阪神・淡路大震災の反省が生かされたことで、コミュニティの分裂や孤独死の防止に一定の効果が見られました。

当たり前ですが、復興というのは家（住宅）という箱があっても解決はしません。働く場所や、近所の人とのコミュニティ等、これからの街を 100 年単位で作っていくという気持ちが必要で、そのためには多少時間がかかっても腰を据えて考えるべきだと思います。阪神・淡路では「すまい」がもっとも主要な復興の課題でした。大阪などの都市圏が近くにあり、サラリーマンの「しごと」を支える環境があったからです。東北３県、特に沿岸部における最重要課題は「しごと」です。「すまい」のための仮設住宅と同じように、「しごと」のための仮設漁業施設、仮設住宅街の整備がまず重要です。

東日本大震災は、被害エリアも広く、人口の集中している都市部も小さな集落の沿岸部も含まれています。それぞれの街の特性や機能に合った復興の形を、自分たちのこととして徹底的に議論すべきでしょう。それが、孤独死や、サポートを必要としながら貧困に陥ったり、つながりが切れて社会から排除されてしまう層を救うことにもなると考えています。

炊き出し体験記

3月中旬の土曜日、仙台市でNPO法人萌友が主催する炊き出しに参加させてもらった。炊き出しは人生で初めての体験。食事は12時からだが、準備のため午前10時に集合。

調理室に着くと、萌友のスタッフのほか、女子高生など、ボランティアも6名ほど参加している。私は野菜の下準備担当だ。かたっぱしから人参を切るのだが、40名分ほどの材料とあって、なかなか減らない。早くも気がくじけそう……と隣りの調理台を見れば、毎回ボランティアで参加しているという50代くらいの男性が手際よく包丁を使っていて、焦りを感じる。モタモタしていると間に合いそうにない。

次にリンゴを切っていると「もっと薄く」との指摘。「たくさんあるのに？」と思ったが理由が違った。歯医者に行けず、歯が悪い人が多いので、かたいものは不人気だそう。なるほど。

さて、12時になり、食事室には並んでいたホームレスの人たちが入ってくる。年令は30～70代くらいだろうか。全員が男性。若く、さっぱりとした身だしなみの人も多い。もし道ですれちがっても、まさか路上で生活しているとは思わないだろう。「ここのお茶はおいしいね」とか「ごちそうさま」と声をかけてくれる人も多い。後片付けを手伝ってくれる人もいた。

そんな様子を見ながら、私は炊き出しに来る方のあまりの「普通さ」にショックを受けていた。自分とこの人たちとの間に、何か違いはあるだろうか？　私自身もフリーという不安定な仕事の身。来月、体調をこわして仕事ができなくなったら？　東京で大地震でも起きたら……？　想像するとぞっとする。ホームレス問題は他人事ではないという意識が、さらに強まった一日だった。

（フリーライター M.N）

いま、寄付は一番有効な「参加」です。

みなさまのご参加をお待ちしています。

仙台POSSEの活動を支援くださる方からの寄付金を募集しています。いただいた寄付金は、現地事務所の運営諸経費、ボランティア募集費、スタッフ人件費、交通費、車両レンタル費、支援物資購入費など、責任を持って被災者の方々の生活に役立つように活用します。

ご賛同いただける方は、右記の口座までお振り込みをお願いします。

※念のため、お振り込みの前後にinfo@npoposse.jpまでお名前とともに振り込んだ旨をご連絡ください。

また、被災者支援・復興支援のボランティアを募集しています。参加ご希望の方は、右記までお問い合わせください。

POSSE

【寄付金のお振込み先】

みずほ銀行　経堂支店　普通預金 1075875

口座名義：特定非営利活動法人 POSSE〈カナ：トクヒ）ポッセ〉

【お問い合わせ先】

NPO法人 POSSE 仙台支部

〒980-0811　宮城県仙台市青葉区一番町4-1-3

仙台市市民活動サポートセンター気付

TEL：022-266-7630　　Email：sendai@npoposse.jp

ワンファミリー仙台

【会員募集・寄付のお願い】

ワンファミリー仙台の活動は多くの方々の暖かい心に支えられています。 一人の力は小さくても沢山の力が集まれば大きな力になります。ぜひご協力下さいますようお願い申し上げます。

〈正会員：年間5,000円／賛助会員：年間3,000円〉

その他寄付、物品提供等随時受け付けています。

【寄付金のお振込み先】

◆郵便振替

口座記号番号：02200-8-82849

加入者名：特定非営利活動法人 ワンファミリー仙台

【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人（NPO法人）ワンファミリー仙台

〒980-0802

宮城県仙台市青葉区二日町4-26 リバティーハイツ二日町102

TEL：022-398-9854　　FAX：022-398-9856

ご意見・ご感想をお寄せください
⇒ tokyo@bigissue.or.jp

THE BIG ISSUE JAPAN FOUNDATION ビッグイシュー基金

発行協力企業 UBS KEEN